

(特) さいたま技術士ネットワークに対する質疑応答・講評

【質疑応答】

(粉川委員)

冊子編集のうえで工夫した点について聞きたい。

(発表者)

技術士の視点で冊子を作成したことが冊子編集上の基本方針であり工夫点である。また、見やすい冊子にしようと努力した。今回の事業を進めるなかで、工業高校や商業高校にとっても有効活用できるのではないかという指摘を受けたので、今後は学校への展開を視野に入れていきたい。

(粉川委員)

継続して行う上では、取材される側のインセンティブを考慮する必要がある。それは、いかに魅力的に紹介してもらうかにつきる。そのためにも、メディア系のNPOと連携をはかるなど、他のNPOとの連携も視野に入れた取り組みが必要である。

(村重委員)

産学官連携のうち、学との連携について聞きたい。

(発表者)

具体的には埼玉大学の協賛をいただいた。

(村重委員)

埼玉大学、また他の県内大学の工学系学部と連携して、活動の幅を広げてほしい。

(野島委員)

技術士の視点から見た輝いている企業の特徴を知りたい。

(発表者)

輝いている企業には、それぞれ技術的なノウハウを保持している。また、どの企業も、工場が非常にきれいで整理されていること、社員が外来者にきちんと挨拶できことが共通した特徴であった。

(宮本委員)

冊子は何部作ったのか。

(発表者)

600部である。

【講評】

(野島委員)

製造業を中心に県内40社についてインタビュー調査を行なった。短期間にこれだけの数の会社を回り、経営者にインタビューし、事業所の視察を行なうのはたいへんだと思う。冊子(120頁、600部作成)の有効活用が望まれる。掲載された企業の経営者を招いてのシンポジウムの開催は、冊子配布と相乗効果を期待できる。

中小企業間の交流やマッチングに向けて、技術士集団の知見が生かされた事業になったと評価される。

(片桐委員)

今回の事業目的にある「2・小冊子・・・」を掘り下げて、活用されたら意義深い事業に発展することと思います。

- 1・冊子の配布方法・配置先を公表する。(一般社会に向かって)
- 2・ガイドブック方式に読み物的要素を付加する。
- 3・技術士の状況・企業間交流の利点などをもっと強調しては如何でしょう。

(宮本委員)

冊子作成600部とのこと。できれば多く作成し、県民への周知も必要。編集として、取り上げた項目はよいと思うが、メリハリのある編集を望みたい。

(真下委員)

事業実施に当たってできた団体、関係機関等との連携、協力関係を今後も活かしてほしい。今年度の成果を次年度以降の事業に反映させていただきたい。